

## 新型コロナウイルスから学んだこと

中学3年 八野 心路

7ヶ月前の令和2年1月頃から新型コロナウイルスが流行し始めました。得体の知れないウイルスに私達は恐れ、マスクや消毒液が店頭から消えました。でもこの頃はまだ、誰もが数ヶ月で収まるだろうと思っていたはずです。令和2年3月、学校が臨時休校になりました。自由に外出ができなくなり、自由にやりたいことがやれなくなり、私は新型コロナウイルスが憎いと感じていました。令和2年4月、政府より緊急事態宣言が発令されました。感染拡大を防ぐために外出自粛要請ができると同時に、スーパーやドラッグストアなどに行列ができて商品がなくなったり、お店が閉まり、町から人が消えました。令和2年5月、緊急事態宣言が解除されました。この時私は、喜びよりも感染者数がまた増えてしまうのではないかという思いで一杯でした。

新型コロナウイルスの感染拡大は、色々なことを引き起こしています。中でも私が一番辛いのは、修学旅行や体育祭や文化祭などの学校行事が普通に行えないことです。私達学生にとっては、友達との学校生活を通じて、その年のその時にしか経験できないことや味わえない感情があります。その機会が今どんどん失われています。また1年後、2年後の目標のために頑張ってきたことでさえも諦めなければならない人もいます。しかし一番大きな問題は、「コロナ差別」と言われるもので苦しんでいる人がたくさんいることだと私は思います。新型コロナウイルス感染者とその家族、医療従事者とその家族、感染者数の多い都道府県からの帰省者とその家族、感染者が出た学校などの施設に関係のある人達が、様々なところで差別や偏見や誹謗中傷を受けて苦しんでいます。6月に学校が再開された頃は、母が医療従事者であるために私も周りから偏見の目で見られたりはしないかと不安になりました。きっと、「新型コロナウイルスに対する過度な不安やストレスが、人に差別や偏見や誹謗中傷といった過剰な行動をとらせてしまっているのだ」と私は思います。

私にとって新型コロナウイルスはとても怖くて憎い存在です。ですが、この新型コロナウイルスのおかげで、色々なことを知り、感じ、考え、経験できています。新型コロナウイルスの影響で、私達の生活は大きく変わりました。当たり前になっていたことが当たり前でできなくなり、いかにそれまでが幸せだったのかと知りました。そして、新型コロナウイルスは私に思いやりの心も教えてくれました。私達が戦うのはウイルスであって、人ではありません。感染というリスクを背負いながら働いて下さっている人や、新型コロナウイルスから守ろうとして下さる人に感謝をし、互いに思いやる心を大切にしながら自分に何ができるのかを探して行動していきたいと思います。